様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月31日現在

機関番号：32411
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2012
課題番号：22530346
研究課題名（和文）　インド森林政策史研究

研究課題名（英文）　STUDY OF THE HISTORY OF FOREST POLICY IN INDIA

研究代表者
吉住　知文（YOSHIZUMI TOMOFUMI）
駿河台大学･経済学部･教授
研究者番号：30364813

研究成果の概要（和文）：
主にイギリスで、植民地期のインドのパンジャーブ州、中でもクールー地方の森林政策史に関する史料を、デジタルフォーマットで収集した。おそらく国内では、同テーマでの最大のコレクションにすることができたと思われる。史料収集に多くの努力を傾注したため、研究成果の発表は不充分であったが、収集史料の一部を用いて、クールー森林政策史に関する論文を刊行した。
研究成果の概要（英文）：
I collected historical materials on the digital basis, mainly in the United Kingdom, relating to the history of forestry in Punjab Province, especially in Kullu region, under British rule. These materials constitute, I think, the vastest collection of the same theme in Japan. As I inputted my main endeavour into the collection of the materials, output of the achievement of my study was poor. But I could publish theses as to the history of forestry in Kullu using the materials that I had gathered.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経済学･経済史
キーワード：森林政策史、環境史、森林文化、生態資源管理、ヒマラヤ、植民地支配

１．研究開始当初の背景

(1)日本における植民地期インドの森林政策史研究は極めて乏しいが、海外での研究は、質、量共に非常に高い段階にある。それは、インドの森林政策史研究が、豊富な史料と多様な地域性を背景に、植民地下でインドの森林は保全されたのか破壊が進んだのか、インドの森林政策は、住民の生活の向上に資するものであったのか否か、森林破壊の主な要因は人口なのか否か、共同体的森林管理は森林保全の切り札なのか否かなど、森林政策をめぐる極めて大きな問題が、先鋭的な研究者によって、数多く提起されてきたからである。そしてまた、そこで議論されてきたテーマの多くは、今日の世界の森林問題、さらには、生態資源管理問題を考察する上でも避けて通れないものである。

(2)本研究はインドヒマラヤのクールー地方(現ヒマチャル･プラデーシュ州

(植民地時代はパンジャーブ州）に焦点を当てて、上記のようなテーマにアプローチを行なおうとするものである。クールー地方は、森林査定のための森林調査に森林長官自らが加わったり、森林査定をめぐって、インド総督のみならずイギリス本国政府までが議論を行なっていることなどから分かるとおり、インドにおける極めて重要な森林地帯であった。さらに、平原地帯の一部では、すでにイギリス進出以前に森林の劣化が進んでいたと思われるが、ここでは、そのような形跡が少なく、植民地支配下での森林政策による森林への影響を捉えやすいという大きな利点がある。にもかかわらず、クールー地方に焦点を当てた、議論は殆ど行われて来なかった。

２．研究の目的

本研究は、インドヒマラヤのクールー(Kullu)地方を中心に、植民地期の森林政策史を実証的に明らかにするとともに、それらの政策が住民生活に与えた影響と、それへの住民の対応を軸に、政策の妥当性を検証しようとするものである。また、森林政策史研究に、森林文化の変容という新たな観点の導入を提唱しようとするものである。インド森林政策史研究をめぐっては、極めて示唆に富む議論が行われているが、日本では実証的な先行研究がない。また、クールー地方はインド森林政策史研究において極めて重要な地位にあるにもかかわらず、国際的な研究状況においても、ここに焦点を当てた先行研究は殆どなく、その点でもこの研究は先駆的なものである。

３．研究の方法

(1)本研究は、歴史学的方法論に基づく研究のため、まず行うべきことは、研究目的に関連する一次資料の収集である。これまでの研究で、クールーの森林政策史に関する史料を、Himachal Pradesh State Archives (Simla, India)、Indian Forest Research Institute (DEhra Dun, India)等である程度収集は行っているが、ここで見つかっていないもののうち、旧パンジャーブ州の森林行政に関する報告書類が Oxford の Radcliffe Science Library や Oxford Indian Institute Library (現在改修のため閉鎖中で、史料の一部が Oxford Oriental Institute Library に移設)、古い Kulu に関する旅行記などが Oxford Bodleian Library に収蔵されていることが事前調査で分かっている。また、旧パンジャーブ州の森林政策の形成過程がたどれる、旧パンジャーブ州森林局の Proceedings が大英図書館に収蔵されているので、それらを収集する。
(2)それらの収集した史料を、上記の目的に関して分析をすすめ、それぞれの関連するテーマで論文を発表していく。

４．研究成果

(1)2010年度

①オーストラリアに行く機会があったので、インドと同じくイギリスの植民地であった同国での森林政策の展開を、インドと比較すべく、史料調査を行った。ニューサウスウエールズ州立図書館、ニューサウスウエールズ公文書館にて、同州の森林政策史に関する資料を収集した。主な収集資料は〝Australian Forestry Journal"、〝New South Wales Royal Commission of Inquiry on Forestry" (Final Report)、New South Wales Forest Commission 関連の 19 世紀の史料などで、インドと比較するための、有益な資料である。

② London の British Library の Asia, Pacific and Africa Collections で、旧 India Office Library から移管された India Office Record の "Proceedings of the Forest Department in the Punjab"を収集。Oxford の Indian Institute Library で"Report on the Administration of the Punjab(1853-1924)", "Progress Report of Forest Administration in thePunjab""、"Progress Report of the Forest Survey Branch for 1890-91"等のインドの森林政策関係の史料、および Alexander Cunningham による〝Journal of a trip through Kulu and Lahul, to the Chu Mureri Lake, in Ladak, during the months of August and September 1846, Journal of the Asiatic Society of Bengal, March, 1848" Asiatic Society of Bengal, Calcutta 1848 をはじめとするクールー、カングラの古い旅行記を収集。Oxford の Plant Science Library では、旧 Oxford Forestry Instutute から移管された史料から "Suggestions Regarding the Demarcation of Kulu Forest (1882)", "Report on Forest and Fuel Plantationin Punjab(1868)", "Notes on a Tour of Inspection in the Kulu Forest Division (1906)", "Punjab Forest Leaflet (1832)", "Repoet of the Proceedings of the Forest Conference(1875)","Repoet of the Proceedings of a Conference of Forest Officers

(1872)",Cleghorn の "Report upon the Forests of the Punjab and the Western Himalaya" Government of Punjab, Roorkee, 1865 等の Kulu や Punjab の森林政策史料を収集した。

(2)2011年度

東日本大震災により、大学の授業体制の見直しがあり、それへの対応を行わねばならなかったこと、栃木県の別邸が震災と放射線量被害を受けたため、その対策を行わねばならなかったことなどがあり、予定していた夏期休業中のインド在外研究を行うことができなかった。そのため、一昨年、イギリスで収集した史料の分析を進めて、インドの旧パンジャーブ州カングラ県クールー地方を中心とする、イギリス支配期の初期森林政策史を明らかにする研究を行った。

その成果は、「クールー初期森林政策史 1846-1876」(2012年3月,『駿河台経済論集』第21巻第2号)として刊行することができた。

クールー地方は、1846年にイギリスの支配下に入った。ヒマラヤスギやアオマツが豊富で、植民地政府の森林政策の展開にとって重要な地域であった。それは、イギリス領に編入されて間もなく、インド総督がこの地域を含む森林調査を命じたこと、森林査定の予備調査に中央政府の森林長官自らが乗り出していること、森林査定の過程でインド総督やイギリス本国政府が論争に加わっていることなどからも明らかである。

今日まで、海外ではインドの森林政策史に関して、豊富な研究が行われてきたが、重要な意味を持つクールーの森林政策史を総合的に扱った先行研究は、今のところ未見である。V.Saberwal は、"Pastoral Politics"で、西ヒマラヤの牧畜をめぐる長期的スパンの政治史の中で、牧地を管轄する森林局の政策史を分析しているが、クールー森林政策史を直接扱っているわけではない。シン Chetan Singh は、"Natural Premises"で、長期的スパンの中で、ヒマチャル・プラデーシュ州の環境と社会と経済の相関関係を分析した。政治勢力の台頭、耕作パターン、非耕地利用の方法などへの生態の影響などに示唆を含む部分が多い。クールーの森林についても記述があるが、郡レベルの一次史料にほとんど当たっておらず、依拠する史料の多くが〝District Gazettee"r や土地査定報告書("Settlement Roport")で、史料批判も不充分である。

その点で、この研究成果は、大きな異議を持つものと考える。

(3)2012年度

Oxford 大学大学院の Green Templeton College の客員研究員として 11 ヶ月間イギリスに滞在し、インド森林政策史の研究を行った。

まず Oxford の Radcliffe Science Library で、旧 Oxford Forestry Institute から移管された"Annual Report of Forest Surveys (1875-1905)", "Annual Report of Indian Forest College (1939-1947)", "Annual Report of Forest Ranger College (1881-1949)", "Progress Report of Forest Research Institute (1906-1949)", "Report on the Administration of the Forest Department (1870-1947,所有済みのものを除く)", "Progress Report of Forest Administration in the Punjab (1870-1949,所有済みのものを除く)"などのマイクロフィルムベースの史料をスキャンして収集した。

New Bodoleian Library が改修中で、その中にある Indian Institute Library が利用できなかったため、その収蔵史料の一部が移管されている Oriental Institute Library で次のような史料を収集した。"Gazetteer of Kangra District, 1883", "Punjab District Gazetteer, Kangra District (1917)"など旧パンジャーブ州の Kangra 県関係の史料、"Management of Leased Forests of Busahir (1881)"などの森林関係史料で、いずれも紙ベースである。

Oxford 大学で、古い史料を最も大量に収蔵している Bodleian Library では、" Narrative of Various Journeys in Balochistan Afghanistan and the Panjab (1842)", "The Punjab Being a Brief Account of the Country of the Sikhs(1845)", "Memorandum on the District of Bussahir and the Pacification of the Disaffected Portion of its Inhabitants (1859)", "The Himalayan Districts of Kooloo, Lahoul, and Spiti (1871) "などの Kullu 関係の紙ベースの史料を収集した。これら紙ベースの史料は、多くがデジタルカメラでの撮影が可能で、その点では効率的な史料収集ができた。

10 月に史料収集の拠点を、大英図書館に移し、主に India Office Record の "Proceedings of the Forest Department in the

Punjab"の各年度版から史料を収集した。また Oxford で欠落していた "Progress Report of Forest Administration in the Punjab"の年度版を収集した。また、"Selections from the Records of the Office of the Financial Commissioner, Punjab (1900)"等のマイクロフィルムベースの史料、”Longden, Major, Report on Availability of Timber of Chamba Hills for Public Purposes in Punjab, Exertions of Commended” (Manuscript 1853-54, Shelfmark:IOR/Z/E/4/24/L230)などの手稿史料も収集した。大英図書館の場合、デジタルカメラの使用や、自分での紙コピーも認められておらず(古い史料の場合)、ページを指定して、CD-ROM へのコピーを依頼しなければならない。しかも、いくつかの CD-ROM については、指定と異なるページがコピーされていたり、コピー漏れがあったりして、その対応に追われたこともあり、かなり非効率なものとなった。

この 3 年間の研究期間中に、植民地時代のパンジャーブ州の森林政策史の必要史料はほぼすべて収集できた。しかも、それらのうち、"Proceedings of the Forest Department in the Punjab"の一部はデジタルテキストデータで、他はすべてデジタル画像データ(jpg または pdf 形式)である。

こうして、これまでに収集してきたインドのヒマチャル・プラデーシ州公文書館史料と合わせると、日本においては最大の植民地期パンジャーブ州森林政策史史料コレクションであると自負している。

(4)課題

この3年間の研究では、史料収集ではきわめて大きな成果があったが、成果発表という点では不充分であった。上述のように、2011の東日本大震災の影響や、大英図書館での史料収集の非効率さのためもあるが、こちらの力量不足も否定できない。

今後、何年間かかけて、膨大な史料の分析を進め、インド森林政策史の研究の集大成を行いたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

①吉住知文、社会・地歴・公民の授業作り－ 授業目標、教材研究、授業構成 －、國學院大学教育学研究室紀要、査読なし、第47号、2013、pp.99-113
②吉住知文、イギリス人のくらし、埼玉地理教育研究会通信(Eメール配信版)、査読なし、第5号、2012、Eメール配信版のためページ無し
③吉住知文、クールー初期森林政策史 1846-1876、駿河台経済論集、査読なし、21巻第2号、2012、pp.69-107
④吉住知文、カールトン具申書－植民地期インドのクールー地方の森林行政に抗して－、駿河台経済論集、査読なし、20巻第1号、2010、pp.101-111

６．研究組織

(1)研究代表者

吉住　知文（YOSHIZUMI TOMOFUMI）
駿河台大学･経済学部･教授
研究者番号：30364813